

2009年度ミーティング総括

1年

飯田

●良かった点

- ・自分が教える担当の回の分野に関しての知識は特に深められるし定着する。

勉強会でやったことで一番頭に残っているのはやはり自分が担当した分野だ。人に教えるとなるとまず自分で理解しなければならなくなるので、それなりに調べ物をするいい機会になる。

- ・分野によっては担当の人が教えるばかりでなく、他の人に意見を求められるところ。

教える側の人も経験不足だったり、また簡単に答えの出ない問題もあるので、普通の学校の授業とは違って皆の意見も求めながらやるのはいいことだと思った。先輩方から色々教えてもらえるいい機会にもなった。

●改善すべき点

- ・担当の回以外のテーマに関しての知識の定着が薄い

先ほどの良かった点の裏返しにもなるが、次の週には別の分野の講義になるので人が教えるのを聞いているだけだとどうしても知識の定着にはつながらない。特に気象とか。改善すべき点として挙げたが、これはミーティングの問題点というよりもどうしても個々の勉強が必要になってくるころだと思います。

- ・分野が予め決定されていること。

すでに決まっている分野に誰が担当するかを決めていたが、どういう分野の勉強会をやりたいかをもっと聞いたほうが良かった気がします（ミーティングの時に聞いたような気もするが・・・）。学期の終わりぐらいにメーリスで事前に勉強会のテーマを募集するとか。個人的にはビバークの勉強会はあったほうがよかったと考えています。

●提案

どの発表がよかったとかの人気投票してみてもどうだろうか。

特に深く考えないで提案しているので実用化できるかはわかりませんが、例えば学期を

通して誰の担当の回が一番為になったとか、わかりやすかったとか。競争形式のようにしても面白そうだと思います。人気投票じゃなくても採点とか。ただ遭難事例の勉強会とかもあるんでやりにくそうですが・・・。

以上です。毎週のミーティングは先輩方から山の知識を吸収できるいい機会になっていると思います。しかしまだ改良の余地あると思うので、今の形に固執しすぎないで改善していけたらいいなと思っています。

稲葉

■良かった点

- ・ 晴れの日が多かった。
- ・ AED の使い方を実際に学べた。

■改善すべき点

- ・ ハヤシライスの分量をきちんと定めていなかった。
- ・ 会計報告書を遅れて提出してしまった。
- ・ 勉強会で学んだことがあまり定着していなかった。
- ・ トレーニングする時期にムラがあり、一定の体力を維持できなかった。

西川

良かった点

- ・ まとめテストがあったこと
- ・ 1 回の勉強会で数人がプレゼンしたこと

反省点

- ・ 休んだミーティングの資料を手に入れてないものもある
- ・ まとめテストが年度末にあるのは良かったが勉強会で学んだことをほとんど忘れてしまっていると認識しただけだった。勉強会で学んだことは近いうちに復習しないとだめだと思った。
- ・ トレーニングにほとんど出れなかったのでトレーニング日にかかわらず空いている時間を見つけて自主的にトレーニングしようと思った。

以上です。

春名

- ・ ミーティング、勉強会はほんとうに大切だと実感。特に地形図とか気象とかはじめに学ぶことは山で必須のことなので、主体的なのが一番だけど、まず新入生には出席を徹底させたり、やむを得ず休んだ場合もちゃんとわかるようにさせる必要があると思う。HPの資料置き場はそういうためにも便利だと思うので活用できたらいいと思う。
- ・ 参加型の勉強会がいいと思う。印刷したのを読み上げるだけではなんかあれなので、かっこを作るとか実践形式にするとか、担当する人のためにもなると思うので。
- ・ 勉強会の担当になって調べることは自分のためになった。自由研究やりたかった。
- ・ 山行計画書の作成やミーティング資料などで印刷枚数がちょっと厳しくなりそうだった（生物学類は年間 200 枚）。コピー代が請求可能なのとかどうなってるのかよくわからなかった。

福島

ワンゲルに入って山について何もわからなくても、このミーティングの勉強会で一通りの最低限の知識が得られる。これはとてもいいことだと思います。でも勉強会はあくまで「最低限」の知識で、山に関する膨大な知識のほんの導入に過ぎないので自分から学ぶ姿勢が大切だとも思いました。

よかった点

- ・ 特に二学期、三学期遅刻が少なかったように思う。
- ・ 後半、ミーティング後にご飯を食べに行くのが恒例となった。いいことだと思う。
- ・ 勉強会では出てくるものが新しいことばかりだったので新鮮だったのと同時に、まだまだ学ぶべき点が多いと感じた。

改善すべき点

- ・ 報告のとき、人が多くてパソコンの画面がよく見えない。その山行に行った人は後ろに下がって言ってない人に写真を見せてあげる。
- ・ 全体山行でリーダーのやるべきことを把握できておらず、直前になってあたふたした。リーダーのすることをまとめたものがあるといいかも。（ただ、そこまでする必要があるのかは疑問）
- ・ まとめテストを実施したが、ペーパーテストだけだったので今度は実践編もやればいいと思う。ただし点数化しにくいのでテストという形にこだわらないでもいいと思う。コンパスの使い方など。
- ・ ビバークの方法についてわからないことが多いので勉強会で取り上げてもいいと思う。知らないといざというときに危ない。

三浦

箇条書きで思いついたことをつらつらと書いてみます。

全体のこと

良かった点

- 無事故(怪我につながらなかった、という意味で)
- 一年生同士仲がいい
- 学園祭楽しくできた

悪かった、反省すべき点

- 装備代 10 万円のことをあの場面まで言わないでいたのはもはや詐欺だと思った
- 1 年生内での話し合いが残念(進行の邪魔をする人、話し合いの最中に違うことをやる人、早く終わらせたがる人)
- トレーニングメンバーの固定化(仕方ない?)
- ワンゲルが、なにを目指しているのかがよくわからない(楽しく山を登りたいのか、難しい山に登れるようになりたいのか、など)
- 移動費用がきつい(車持ちの必要性を感じます)

個人のこと

良かった点

- 見たことのないような景色を見ることができた(雲の中、雲の上、雲海、などなど)
- テストがまずまずよかった
- OB・OGの方にHPが充実していると言ってもらえた

悪かった、反省すべき点

- 山に行ったことで怪我をした(ワンマラに出られなかった、2ヶ月くらいまとともに走れなかった)
- 朝がきつい(朝の準備の際、自分で起きれたことがない気がする)
- 「ワンゲルのために時間を割く」のがつらくなってきてる(天気図とか勉強会とか)
- てかそもそも山に行くのが好きなのかが最近分からなくなってきてる

森本

◆【良かったと思う点】

- ・ リー会や勉強会の制度
- ・ トレ日の設定&トレ室の使用&トレ後のご飯&トレの動機づけ(南ア前)

- ・新歓があたたかかった
- ・下山後の反省会
- ・気象勉強会番外編
- ・お疲れ飲み・新年会⇒テスト勉強のモチベーションとなり、OBの方との交流は何かしら刺激になった。

◆【改善した方が良いと思う点】

- ・トレーニング参加率の漸減（各自やってるかもしれませんが・・・）
- ・運転技量

森山

1. 良かった点

1-1 意識の高いミーティング、リー会

自由参加のいわゆるテキトーなミーティングではサークルが単なる人の集まりになってしまうと思うが、毎回の勉強会等々で山と真剣に向き合う気持ちが早くから生まれた。

1-2 ワンゲルノート、ホームページ

これらの媒体を通して、メンバー全員との交流、情報の共有が可能となり、皆で集まるのはミーティングは週1回しかないが、それでは得られない一体感が生まれたのではないかと思う。

1-3 まとめテスト

勉強会の知識定着にはやはり自らアウトプットする事が大事である。学期に1回やってもいいのではないだろうか。

2. 改善した方がよいと思われる点

2-1 学期規模の予定の把握

月一回でも良いので学期間の行事予定を毎回確認して、早め早めにメンバーの予定と照らしあわせたり、しなければいけないことをミーティングで考えるべきだと思う。リー会員の減少と対策はこれをしていればもっと早くから手を打てていたと思う。またこれは自分の問題であるが、塾講の出講調査（1月末）の時に親睦山行の予定が頭になく決めてしまったところバツティングしてしまった。

2-2 トレーニング

現在の指定日に対する参加率が低すぎる。予定があつてこられない場合はしかたがないが、誰が仕方なくこれないのかを完全に把握していないために、理由がわからない人がさぼっているように感じてしまう。全員わかっているならば割り切れるが、わからない状態で2、3人でのトレはやはり寂しいものがある。誰がいつトレするのかをちゃんと話し合った方がいいのではないだろうか。最低限必要なトレさえ、さぼってもわからない状況になっている。

吉田

良かったと思う点。

- ・新入部員が多かった。
- ・多くの山行が組まれ、また天候に恵まれたこともあって多くの山に行くことができた。
- ・HPの写真が充実してきたこと。
- ・4年生が部に顔を出してくれる機会が多く、その経験知識を教授してくれたこと。
- ・まとめテストの実施。

改善した方が良いと思う点。

- ・多くの部員が気象の読み方に不安を感じていること。
- ・軽アイゼンなどの装備を携行しているなら、山の中で機会をみて（安全と確認でき、状況を判断して）練習する機会があつて良いと思う。いざ使う必要に迫られた状況で、実践を積んでいるかと使い方を教わっただけかでは、スキルの面だけでなくメンタルの面でも大きな隔たりがある。
- ・部員の意見を聞く勉強会では、勉強会後意見をまとめてファイルにしておくと思う。
- ・HPに関して、利用のデモができると良かった。
- ・運営だけでなく、特に山の中で3年生への依存度が高かったこと。
- ・車の免許保有者が少ない。

若林

・感想

まずワンゲルの活動を通しての自分の感想・反省点から述べたい。今年度から登山を始めたため、山についての知識についてゼロから学ばなければならず、最初は不安で仕方がなかった。しかし毎週あるミーティングでの勉強会で新しい知識を学び、週末の山行でそれを利用・実践するうちに、ある程度の山についての知識は得たと思う。とくに天気図や地図読みの技術については大きな向上があった。しかし一方で山ではあまり使わない知識、たとえばトレーニングにおける注意点などは、勉強会が終わればそれで終了という感じが

あった。この対策としてテストが行われはしたが、自分はあまり復習することなく当日を迎えてしまった。来年度は確実に知識の定着を図りたい。

ミーティングに関しては勉強会が主な内容だったと思う。勉強会について以下に良かった点と悪かった点についていくつかあげた。

・よかった点

- ・ 山で必要な最低限の知識について学ぶ機会を得られた。
- ・ 2学期以降は毎回数人で担当したため、全体的に広い範囲をカバーできていた
- ・ 1年生が調べてきた内容について上級生が補足・訂正するなど、より充実した内容にすることができた。

・悪かった点

- ・ 山の名前や地名など必要不可欠ではない(?)知識について不足。
- ・ 勉強会でやらない部分については触れることがない。
- ・ 出席しなかった回はそのまま。
- ・ 多くの回が講義形式で実技のようなものが無かった。

悪かった点について意見を述べていきたい。一点目について一度、東京周辺の山についての勉強会があったが、その際ほとんどの人が山域名や山脈名を正しく答えられない場面があった。自分もそのうちの一人なのだが、比較的身近の山であるにも関わらず答えられなかったのは少し悔しかった。二点目については個人差があると思うが、全く勉強していない人もいような気がしてならない。毎日時間を確保しなければならないとは言わないが、せめて1週間に1時間程度は本を読むなどしたほうがいいと思う。3点目はミーティングを欠席した場合であるが、以前ある人物と話しをしていた際、「以前に勉強会でやっただろ～」と言ったところ、「その回休んだから」と返された。確かに欠席すればわからないのは当然だが、これは後日、出席していた人に欠席した回の内容を聞いて、自分で勉強しておくのが普通だと思う。毎回、その前回の内容について、5～10分程度でできる復習ミニテストのようなものを行ってもいいかもしれない。

最後は勉強会の形式についてであるが、これはその回の内容にもよるが、もっと実技を増やしてもいいと思う。たとえば春山気象であれば、天気図を書いて翌日の天気を予想し、実際の天気と比べてみるなど、実際に知識を運用して定着を図るのである。細引きを使ったロープワークやツェルトの張り方など実際にやってみないと覚えにくいこともあると思う。

来年は上級生の数が減り、現役は現1年生が中心となるなど、今とは異なる状況になると思われるため、各人が十分な知識と技術を身につけ、安全に配慮した山行を行っていく必

要がある。しかし勉強会は時間の都合上、現段階では必要最低限の知識について学ぶのが精一杯であり、そのため個人の努力が必要不可欠であると思われる。暇な時に集まれる部員で集まって実技の練習をするのもいいかもしれない。自分からやる気をもって活動することが重要だと思う。

2年

市川

良かった点

- ・天候に恵まれた山行が多かった。
- ・テストで自分が山についてちゃんとわかってないとわかった。
- ・山登りが楽しい事を知れた。

反省点

- ・勉強会の復習をする。
- ・体力をつける。
- ・自分が行く山についてちゃんと調べてから登る。

佐藤

今年度の活動を通して

良かったこと

- ・たくさんの新入部員が入ったこと
- ・山行が多く出て、秋の全体山行以降は一年生も積極的に山をだしてくれた
- ・また一年生の山に対する意欲が高く、上級生が少ないにも関わらず、一年間を通して活発に活動できた
- ・三年生が多く山の山行を出してくれた
- ・三年生、リー会のバックアップが大きかった
- ・四年生の山行の参加率が高かった
- ・勉強会資料もよかった、確認テストの問題がよかった
- ・朝練や沢研の活動がワンゲル全体の意欲向上につながった
- ・（スベック？）などワンゲル以外の活動もあり、広く活動できた
- ・会計局の就任
- ・ワンゲルのホームページが飛躍的に向上した

改善点

- ・トレーニングへの積極的な参加
- ・山行の積極的な参加
- ・各仕事の分担、リスク削減

3年

岩見

今年のよかった点

- ・新入生がたくさん入部してくれたので、全体的に山行へいく人数も増えた。また、昨年課題となっていた秋山も那須をはじめ、活発に行われていたと思う。
- ・沢研も今年はたくさんの沢にいけてよかった。常に山行が出ていると、研究班以外の人でも楽しい。
- ・装備も補填されて、快適な山行にできたのではないだろうか。

改善すべき点

- ・山行報告のなかに、メンバーの体調不良によって行程変更、途中下山を余儀なくしたものが目立ったと思う。山行へ臨む上で、体力と体調の管理を徹底するよう心がける必要があると感じた。

個人的に

- ・相変わらず山に行っていないのに色々言うのは抵抗があるので、もっと山と親しむ。

奥村

【今期の活動を振り返って】

1. ミーティング

毎年問題になることだが、遅刻・欠席の連絡を徹底できなかったし、させられなかった。クラ代会など他の会議にも約3年間出続けているが、「遅刻・欠席者は事前に連絡を済ませており、会議がキッチリ定刻に始まる」ということが、良い会議の雰囲気を形作るうえで不可欠なものと感じている。全員がこれを完全徹底することはとても難しいが、ルーズな雰囲気を野放しにしていると、良い雰囲気はすぐに失われるし、それを取り戻すことは非常に困難である(ex. 現在の地球学類クラ代会)。あと、山口さんによく言われたことだが、「資料の印刷が間に合わないから遅れる」というのは、遅刻の言い訳にはならない。普段から作業に使える時間を管理できるようにしよう。リー会も同じ。

2. 山行

1学期は沢研のほか、石鎚山を提案し、新研、雲取にも同行した。筑波山を除いて5～6週ぐらい山行が連続したが、体力的には間に合っていたのでよかった。石鎚山では、予想以上の渋滞により、山の内容の割にアプローチの労力が大きすぎたのではないかと思う。金額だけの観点から、遠方へのアプローチに安易に車を選択する、というのは考え物だ。自分が参加していない山行については、数は揃っていたと思うが、内容がお粗末なものがあった。やはり新入生の比率が大きかったことが主要因であろうが、一方でリー会では、

安全に連れて行けるルートや人数比の限界について精査するよい機会となった。

夏休みは、ヨーロッパでのトラブル、および長期準備中に風邪をひいたせいで多大な迷惑をかけた。心残りは、全員が夏休み中の山行に参加できたわけではなかったことである。

2学期は沢研と全体山行のみ参加したが、それ以外にも魅力的な山行が提案されていた。例年だと学祭以降はバリエーション以外の計画が出ず、「全体山行から親睦山行までの期間全く山に行かない」という人も割と出てくるが、今年度はそれほどでもなかった。これはとあるOBの方のご協力によるところが大きい。

3学期は結局クライミングにも行かずに終わってしまった。丸々一学期間山に行かなかったのは初めてだが、ゼミ等で作業時間を取られることが多かったので仕方ないかもしれない。

3. その他

昨年度の野外運動で野外研にコネを作り、SPECを使わせてもらえるようになった。最近では野外研主催のクライミングツアーに参加する人もいるようで、学内の他組織とも交流が盛んになるのは良いことだと思う。

親歓活動は大成功だったが、やはり教室が取れたことが大きかったと思う。来年度は、もし入部希望の新入生が多すぎるようであれば、装備の数が限られていること、3年が少ないことも踏まえ、ある程度の人数制限をかけることも必要だと思う。

【来期に向けての不安要素】（学年はすべて来年度のもの）

・3年が少ない

代替えの際にも色々あったが、これは弱点として認識しなければならない。勉強会や山行中に、知識や判断について訂正・補足される機会が減る分、各自勉強量を増やすことが求められるだろう。4年は基本的には一會に出てくるだけの存在だと考えてもらいたい。ただし、少しレベルの高い山に行きたい、以前行った山について話を聞きたい、等の場合には遠慮なく声をかけてほしい。

・ドライバーが少ない

車を持つことは難しくても、運転免許は早めに取得することをお勧めする（できれば合宿免許は避けてほしい）。車の方が費用の面で楽になることもあるし、車でなければ行けない山域もある。

・気象判断

天気図を正しく書き、そこから最大限有益な情報を読み取り、正しい判断につなげられる能力はまだ不足していると思う。天気がどのような条件でどのように変化し、それが行動にどのような影響を及ぼすか、ということについて、下界でも山でも考える時間を増やしてほしい。

北村

ミーティング総括らしからぬ事柄を多く書いてしまいましたが、全体の構成は、まず勉強会を振り返り、次に山行を振り返り、最後に来季を展望するという形になっています。

<今年度の勉強会を振り返る>

1 学期の地形図の勉強会がイマイチ。特にコンパスの使い方のところ。コンパスは一度覚えれば使えるようになるものではない。実際に山中で使うことと下界で勉強することを何度か繰り返してようやく身に付くものだと思う。もう一度振り返りたいと思ったときに、後からみても「わかる」資料づくりをしてほしかった。

今年度は昨年度より天気図の勉強会が充実していた点は良かった。天気を予測することは簡単なときもあるが難しいときも多いので、みなさんががんばってください。3 学期は少し余裕があるみたいなので、天気図を書き、天気図を読む練習をする勉強会を入れてもいいかも。最後は一人ひとりの勉強次第だと思います。

また、ほんの一部の勉強会資料の中には Web サイトの Copy&Paste をするばかりで、「どうしたら内容が充実するか」についてもっと考察してほしいと思うものもあった。Copy & Paste は必要に応じてすればいいし、本や過去の勉強会資料の中からの引用もしていいと思うが、内容を考察した上でのものであるべき。簡単に済ませてしまおうとせず、勉強会の質を高めるために時間を割いてほしいと思う。

もちろん資料だけが勉強会ではなく、内容があつての勉強会。充実した資料で充実した内容を伴った勉強会を行ってほしい。勉強会をするために得た知識は役に立ちますのでがんばって。

<今年度の山行を振り返る>

1 学期。ポールを忘れてくるとか・・・あり得ません。1 年生が上級生の数に比べてたくさん入部してくれたおかげで、上級生の目が行き届かなかったために起こったことと言うこともできるでしょう。そう、今年はテッカテカの 1 年生の多さのあまり、山行の安全性のボーダーラインを超しているのか否かを多く考えました。1 学期中に新研を含めて 5 回(石鎚山、大菩薩嶺、雲取山、金峰・瑞牆山、鳳凰三山)の山行を組めたことは及第点に達していると思います。沢研不在の中(奥村は孤軍奮闘)、普通の人たちがよく頑張ってくれました。感謝、感謝。

夏休みは 5 回(プレ長期、北ア長期、飯豊、南ア中期、高天ヶ原(??))でした。OB の参加にも助けられ、結果は悪くないと思います。来年度は長期 3 回か!?

2 学期は 5 回(甲武信ヶ岳、那須岳、おためし沢、草津白根・榛名山、荒船山)でした。1 年生がリーダーを務めてくれたことは良かった。数値化することはできず、実態のないものでわかりにくいと思いますが、これは来季への貯金になります。個人にとってもワング

ルにとっても。リーダーをすると、山行に対しての安全管理を考える機会が必ず与えられるし、山行全体を通して必要なスキルを練習し、身につけることができます。来季もぜひこの時期に1年生にリーダーをしてもらって、再来年度の貯金をつくってほしいと思います。甲武信しか行ってないという人も多いのでは？せっかくの秋山ですから、全体山行以外にもう一つくらい行ってみるといいですよ。ただ、秋山は天気気に気をつけて!!

3学期は悲劇の0回です。東京の大学に比べて行きにくい場所も多いですが、ぜひ低山に行ってみてください。いろんな山を歩き、いろんな山を見て回る。山に対する価値観が自然に芽生え、考え感じることで生長し、夏に行く名山の良さを味わうことで花開くのではないのでしょうか。やはり夏に行ける山のほうがスケールが大きくインパクトが大きいため、インプレッシブでプレシャスな体験になります。みなさん一人ひとりが独自の山の価値観を持ち、山を歩けば、より一層充実し楽しい活動になると思いますよ。

全体を通して考えると、3学期は残念でしたがそれ以外の重要な時期は良かったと思います。来年度はぜひガンガン山行を出して、行きたい山全部に行ってください。

<来季を展望する>

山行をガンガン出すということは、山行を出すタイミングも重要になるので気を付けてください。春休みにでも、来季のメンバーで集まって一度全体で話し合うことをお勧めします。ワンゲル全体(リー会も含めて)がうまくコントロールされているか、なるべく多くの人が気を配るようにすれば間違えることはないでしょう。

僕自身、来季については全く心配していません。人が足りているので大丈夫だと思います。もし必要になったら呼んでください。実は近くに潜伏していますので。

福島君もまだまだですが(笑)、みなさんお互いにサポートし合って、またサポートに頼りすぎずに活動してほしいと思います。

長谷川

<個人的な反省>

- ・ミーティングに臨む姿勢

→気分によって、ミーティングに臨む姿勢に変化をつけてしまった。

- ・名簿作成が遅かった

→結果、山行計画書をつくるリーダーたちに楽をさせてあげられなかった。

- ・知識の少なさ

→三年生のみんなはアドバイスをしてあげられるのに、俺はしてあげられないというさみしさ。

＜全体的な反省＞

- ・今回のミーティング総括もそうだけど、期日以内に提出すべきものはしよう！！

→はい、すいませんでした。奥村君。

- ・勉強会各回に、話し合ったり、考えたりするトピックを入れれば、盛り上がるのでは！

＜良かった点＞

- ・一年生がたくさん入ってくれたおかげで、部費が潤ったし、話し合いで様々な意見を聞くことができた。

- ・どんどんワンゲルをよくしようとする試みがみられて微笑ましかった。

＜最後に・・・＞

上にもあるように、どんどんワンゲルを良くしようとする行動が多々みられるので、その気持ちを絶やさず、1，2年生には頑張ってもらいたいと思う。

一年間ありがとうございました。

これからもり一会にはいると思われるので、仲良くしてくださいな。

たまには、飲んだり、遊んだり、山行ったりしましょー！！！誘ってね！

原田

良かった点

○OBOG の山への参加

上級生不足が心配されていたこともあり、今年はOBOGの方に参加してもらって成り立った山行が多くあった。しかし、「体力だって落ちているし、OBOGを頼りすぎるのも考えもの」ということも当然である。来年度、私たちの代を含めて、OBOGに参加してもらうときには、そこら辺も考慮した方がいい。

改善点

●ミーティング出席率に関連して

今年は人数が多い分、「全員が集まらなくても仕方がないよね」という空気になっていたように感じる。どうしても用事が入ってしまったり、体調不良であるならば仕方がない。しかし、登山というものは多分に精神的要素が比重を占めるスポーツだと思うので、日々の生活態度なども実際の山行に反映されてくる。

少なくとも、「同じ立場で山に行くメンバー」＝「同期」は互いの「真剣さ」をある程度日頃から確認しておきたい。ミーティングやり一会は、友達としての付き合いだけでなく、ワンゲル部員としての付き合いだから、その「真剣さ」を互いに確認するうえでも参加す

る意義がある。言いたいことが分かりにくいかもしれないが、要するに、普段から「一緒に山に行きたい」と思える奴とメンバーを組みたいよね、ということだ。

話し合うべきこと

□やはり、来年度の山をどういった感じで出すか、ということが気になります。新入生の為だけではなく、自分たち自身の為にも、是非積極的にリー会に計画を持ってきて欲しいです。今はオフシーズン＝山の計画をゆっくりと立てられる時期なので、みんなでエアリアルでも見ながらワイワイ話し合ってみてはどうでしょうか？

おわりに

新入生がたくさん入って良かったです。本当に。
ワンゲルの売りは「自由さ」であり、それはなかなか難しいものです。来年度も山にたくさん行く人と行かない人が出てくると思います。ちなみに私はどちらかと言えば後者でした。別に「それが原因でギクシャクする」とは言いませんが、せめてミーティングやリー会には同じ立場で、同じ気持ちで出席するようにしましょう。後で「よし、そろそろやってやろう」という時に、スムーズに意識と行動が伴うと思うので。